

令和元年度第2回 市民活動・ボランティアサポートセンター運営会議 会議録

日 時 令和元年8月27日(火) 10:00~12:00

場 所 姫路市市民会館 5階 第11会議室

出席者 委員7名 事務局5名

(委員) 藤本 真里 座長 米谷 啓和 副座長 大塚 優子 委員
安積 英孝 委員 川石 雅代 委員 橋 正人 委員
福永 強 委員

(事務局) 市民参画部 平石部長、市民活動推進課 藤保課長、
市民活動・ボランティアサポートセンター 佃所長 岸本主任 田代主任

次 第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 10周年記念フォーラムについて
 - (2) 第8回ひめじおんまつりの進捗状況について
- 3 閉会

会議の進行記録（要点記載）

（10周年記念フォーラムについて）

事務局： 資料1 10周年記念フォーラムについて説明

委員： コーディネーターの新川先生には、このボランティアサポートセンターの立ち上げの計画や市民活動・協働推進事業計画などでも座長をしていただいていた。この開設10年の振り返りというの、何かひめじおんまつりのことも掲載される予定か。

事務局： 掲載する予定。

委員： 感謝状の贈呈で、永年センターの運営に協力いただいた個人、団体ということだが、基準などはあるのか。

事務局： 現在、基準を考えているところで、個人の登録ボランティアさんやひめじおんまつりの実行委員として永年されたような方、団体についてもひめじおんまつりに永年参加されている団体を想定して選定しているところだが、まだ詳しく言えない状況。

委員： 感謝状というのは初めてか。

事務局： 個別に単発でというのは過去にもあるが、こういったフォーラムの場での感謝状というのは初めて。

委員： こういう感謝状で励みになったり、動機づけになるかと思うが、基準が「永年」というのはどうなのか。永年登録だけしている方もいる一方で、見えないところで一生懸命されている方もいるので、そういう方にもスポットが当たればと思う。また、市民活動やボランティアは見えないところで、本人の思いがあつてやるというのがあるべき姿なのではとも思う。

委員： 私も、感謝状というのは違和感がある。もちろん感謝の気持ちをセンターとして表すことはいいと思うが、感謝状を出したら出したで、なぜあの人が？とか、私は？と思う方もあるのではないかと。基本的に、自発性や、ボランティアの気持ちを持ってやっていらっしゃるので、そこに濃淡をつけるというのはちょっと。この感謝状の意図はどういうものなのか。

事務局： 例えば市制記念式典などは、表彰というかしこまった形をとっているが、こちら
はあえて感謝状という形をとった。これは、裏方的なことも含めて、協働という
形でご協力いただいている団体や個人の方々に、センターとして感謝の気持ちを
表したいということが意図である。不公平感や不満が出るのは本意ではないの
で、その辺は意見として承りたい。

委 員： 表彰の基準は検討中ということだが、推薦などは考えているのか？それとも、基
準に基づいて選定するのか。

事務局： 推薦という形ではなく、事務局の方で基準に基づいて選定したい。

委 員： 趣旨が、センターの運営に協力してくれた方となっているので、そういった選定
になるのでは。ボランティアを頑張っている人ということになると、違うものにな
るのだろうけど、これはこれでいいのではないか。

委 員： パネルディスカッションの件だが、もう少し焦点を絞ってはどうか。10年を経
て課題や方向性を改めてここで議論する段階ではないと思うので、これからのボ
ランティア活動のあり方みたいな総花の話では、あまり聞きに行く気がしないの
では。新市長就任から半年がたち、方向性も決まってきたのではないかと思うの
で、その市長の基調講演と連動した形で、その方向性を打ち出していったほうが
いいように思うが。

委 員： 市長のボランティアに関する考え方とかはどうか。いろいろと考えをお持ちだ
という印象は受けるが。

事務局： ボランティアの面だけでなく、もう少し広い捉え方になるが、市長のよく言われ
るキーワードが「ライフ」で、この「ライフ」という意味には3つある。一つは
生命、命を大切にすること。二つ目がくらし。もう一つが一生。人々の生活や人生を
実りある豊かなものにとりか、生涯現役とか。生涯現役は前市長も特に力を入れて
おられた分野ではあるが、それを大切にして、「人を大切にし、人に寄り添う市政」
というのをスローガンに掲げている。基調講演の細かい内容、骨子などについて
はまだだが、そういった視点と、医師としてのこれまでの経験、例えば東日本大
震災の方でも現地入りして活動する中で、つぶさにボランティア活動を見ておら
れると思われるので、そのあたりのお話をいただけるのかなと思っている。パネ
ルディスカッションについても、センターができるよりも前になるが、県内でも

阪神淡路大震災が起こって、その後、NPO法が施行されてというように災害をきっかけにしてボランティア活動が盛んになってきた面もあるので、そういったところも振り返りつつ、今後のあり方など、それぞれのパネリストから意見をいただきたいと思っている。大まかな骨子の案を考えて、新川コーディネーターに相談して、ディスカッションの展開を決めていきたい。

委員： 市長の方針というのはその後々の活動に大きな影響があると思うが、パネルディスカッションの活動のあり方などは、中身まで我々がここで協議することなのか。委嘱した時点で中身も決まってくるのでは。その内容に問題があれば、パネリストの方々にディスカッションの方向性を示しておけば。

委員： 内容ではなくて、タイトルに意見をしている。聞きに来てもらうための見せ方やアピールの仕方。フォーラムのテーマも含めて、タイトルもコピーになっていないといけない。

委員： 確かに言葉として幅が広すぎるかと思うが。センターがスタートした当初の議事録を見たが、当時、熱い思いがものすごくある。それから10年経ち、ボランティアの在り方、特に観光ボランティアのあり方はすごく変わってきている。それから、当初は、地域活動はそれほどのウエイトはなかったと思うが、それも変わってきた。そういった面からもう一度立ち止まって見直す。そういう意味では、すごくいいことだと思う。

委員： 私も、ボランティアだけでなく市民活動という面を打ち出して行くべきかと。姫路の活性化のためにも、若者が姫路に戻ってきたいと思うような方策を取っていく方がいいと思うので、市民活動に関してもスポットを当てるようなディスカッションができればいいのでは。

委員： 全体を扱うにしても、ボランティア活動という幅が広すぎる。個別の内容は任せるが、もう少し魅力的な内容を検討していただきたい。

委員： あり方という点で考えると、姫路市では公民館を中心とした地域活動という方向に大きくシフトされると聞いている。そういう意味では、この活動のあり方というのは時宜を得ていると思う。

事務局： 公民館のあり方の話が出たが、地域活動充実支援事業として実証実験の参加団体の募集を締め切ったところで、今から選定に入る段階。本事業は市民活動推進課

の所管で、対象は地区連合自治会を中心とした地域の団体。センターにはサポート的な役割を想定し、NPO の力も借りて進めていきたいと考えているが、今回のフォーラムは、センターの開設10周年の記念事業なので、市民活動のみにフォーカスした内容にはなっていない。ただし、座長もおっしゃるとおり、ボランティア活動というのは幅広く、ボランティア活動以外にも、市民活動、地域活動も含まれる。そういったところとセンターやボランティア活動をされている方、NPO の力などをどう結びつけていくかというところが、今後の課題と考えている。パネルディスカッションにおいては、時間も限られる中で、ある程度パネリストの方々にお任せしたいと考えているが、今日頂いた意見を踏まえて、コーディネーターやパネリストの方々に方向性やポイントなどをお伝えしたい。

委員： キーワードとして「市民活動」だったり、「市民活動・ボランティアサポートセンター」などが、タイトルに出てくるほうがいいのか。

委員： この10年を振り返ると、いろいろとあった。社協との関係もその一つ。今、総合福祉会館のボランティア活動室を使う時に、センターと社協の両方に登録が必要で、この状態はいつまでも解消されないままなんだと思う。そういうところを踏まえて、今後の10年をどういう風に話されるのかと思う。

委員： 次の10年となると、センターのあり方も変わる部分が大いにある。地域活動支援のあり方の今後の状況もあり、このまま直営でいいのか、また、どういう担い手がどういう運営をしていくのかという議論もある。ただ、ここはこれまでの内情を踏まえた内容というよりは、おおらかに全体のことを論点にするのかもしれない。新川先生と打ち合わせをした後に、タイトルが決まるのか。

事務局： タイトルはもう決定しており、周知の関係もあり、ポスターは校了した。チラシは現在作成中なので、今日頂いた意見を踏まえて魅力的な伝え方を考えたい。

委員： センターを知る方が来ると思うが、この10年の歩みの説明が必要では。

事務局： 当日の配布資料の中に、そういったものを加えたい。他に、ホワイエで10年史を展示する。

委員： 例えばスライドで10年の歩みを見せるとかはどうか。

事務局： そういう工夫はできたらしたい。

委員： 始まるまでの間にスクリーンでスライドショーをすとか。

委員： 盛り込めるなら、是非やっていただきたい。スライドショーをした上で、詳しくはホワイエの展示をみていただくというようなアピールの仕方もある。

委員： 意見を求められても、結果その意見が反映できないというのはどうかと思うので、こういった議事については、報告と意見交換と、もう少しメリハリを付けたほうが良い。

(第8回ひめじおんまつりの進捗状況について)

事務局： 資料2 第8回ひめじおんまつりの進捗状況について説明

委員： このひめじおんまつりが始まって以来、障害者の関係団体が関わっているので、その団体の方に是非実行委員になっていただきたいという強い思いがあった。このたび、団体の副代表の方が見学に来られたので、やっと糸口が見えたのかなと思う。結局実行委員として参加されるのか？

事務局： 見学にはきてくださったが、参加についてはまだ聞いていない。

委員： まずは見学を、と誘った。入るか入らないかは別として、こういうことをきっかけにいろんな障害関係団体の方々に関わってもらいたいという思いがあったので、少し糸口が開けたのかなと思う。

委員： 去年のひめじおんまつりで、託児コーナーにはいろいろな方がきてくれた。高校生が来て子どもたちに読み聞かせをしてくれたり、大人の方も、聴覚障害の方が来られて一緒に遊んだり作業してくれたり、とても良い体験をもらった。子どもたちが来た時に受け入れる私達がラフな感じでやると、入って来やすいんじゃないのかなと実感した。実行委員として、楽しく帰ってもらいたいという思いがある。その点から考えると会場がバリアフリーではないので、車椅子の人たち向けに何かいい方法をというのが今年の課題にもなっている。

委員： 最後のクロージングイベントが一つの交流の機会なので、たくさんの方に参加してほしいが、収容できる大ホールはバリアフリーではない。舞台上に皆で車椅子の方を支えて上げるとか、いろいろ考えて、全員が参加できるような形にしていきたいと思う。そういう点を踏まえてどうすべきかを当事者に近い人達に参加して

もらって、意見を聞いて作っていききたい。

委員： フラットな形の大きい部屋がないというのが問題。市民会館はセンターの事務所がある場所なので、ここでやることには意味があるが、こういう点をいろいろ考えなければいけない。

委員： 私もいろいろ考えて、可能な方法を提案したい。毎年、何らかの課題があるが、意見を聞いてみんなの力でできたら良いと思う。

委員： 無理なら良いが、去年ひめじおんまつりに出てくれた中学校などに感謝状を渡すのはどうか。

事務局： 基準に達した場合はあり得るが、1回の参加だけでは難しい。

委員： 今、高校などの学区も広くなり、8市8町の連携プレーもやっている。例えば、図書館の本も市域を超えて貸し借りできるようにもなっているので、同様に周辺地域との連携もしていけば良い。ボランティアのメンバーは姫路在住、在勤の方だけではない。他市の方に参加してもらって広くPRしてもらって代わりに、手伝っていただくという環境になっているのでは。あいめっせの話になるが、メンバーに市外在住者がいるのは良いが、市の補助事業を他市でやるのはダメといわれる。そのあたりは整理すべきだが、ボランティアはいろいろな意味で広域なので、もう少し幅広く捉えても良いのではと思う。

事務局： 各地の社協にはボランティアセンターがあるが、一方で行政が設置するボランティアセンターについてはその8市8町で公設や委託や指定管理のような形態をとる自治体は実際どれくらいあるのかなというところ。県のボランティアプラザにおいて、NPOなど中間支援団体の会議がある。宝塚市、西宮市は公設民営で、加古川では県が指定管理を導入している。直営でやっているのは姫路市と淡路市くらいではないかと。もちろん社協にはあるが町単位となるとそういった形態はない。従って、市町村間での連携の場がなくて困っており、結局ボランティアプラザに頼って、情報を得ている。そういう状況なので8市8町の広域連携というのは実際、難しいと感じている。

委員： それをフォーラムのテーマに、これからの10年とかで話を入れたらどうか。活動も広域化する方向で。これからは、ここまでが姫路市というような境目がなくなりつつあるのでは？フォーラムのテーマに盛り込むのが難しいのであっても、

これからの10年を語る上で、一つの課題となる。

委員： 市民提案型の事業で、姫路でもやるが他市でもやるというのは認められてないのか？

事務局： これから柔軟に考えていけば良いと思う。あいめっせの登録団体のメンバー要件が姫路市周辺、8市8町の在住の方も可と緩和された。センターの団体要件も同じようにしたり、住んでいる市域を超えて通学できるようになっているので、8市8町周辺の高校に通っている高校生も参加可とするなど、そのように連携すれば活動の範囲は広がっていくのかと思う。ただ、他都市の事業を姫路市のお金を使って行うことにもなるので、市民の皆さんに納得いただけるようなやり方を考えなければいけないが、いい方向だと思う。

委員： このひめじおんまつりの参加団体に対する縛りがあって、姫路市民を対象にするという条項がある。その条項を外したほうがいいのではないか。現実的に去年は他市の高校生が手伝いにきてくれている。

委員： 裏方の裏方で、前日のセッティングに彼女、彼らが来てくれた。

委員： その条項を外すのは難しいのか。

事務局： 本市の場合は登録団体の中でNPO法人だと活動エリアはないので、どこで活動していても良い。姫路とプラスアルファ市外で活動していれば良い。

委員： そうではなく、姫路市民に対してやっているということが書いてあるので、その条項はどうか。

委員： 登録団体のことではなく、まつりの参加団体の要項のことでは？

事務局： まつりの参加団体というのは、センターの登録団体とニアリーイコールだ。

委員： 参加団体は結局登録団体であるが、参加募集の要項に、姫路市民を対象にサービスを行っていると書いてある条項があるので、そこがどうかということ。事業所の拠点が姫路というのは問題ないが、サービスの対象を姫路と書いてしまうのがどうかと思う。

委員： 事務局の話では、登録団体の活動が他市に渡るのは問題ないということだったが、その資料を確認して必要なら検討するという事だ。

委員： 文化コンベンションセンターの完成に合わせて、ひめじおんまつりを開催しては。前向きに検討してほしい。
今回の会議に向けての提案など、ほかに何かあれば。

委員： 夏休みボランティア体験学習が、今年で2年目になるが、どんな意見があるのか。

事務局： まだ、体験学習は途中段階なので、まとめてはいないが。今回、大原簿記情報法律専門学校（以下、大原専門学校）から多くの方に参加いただいた中で、アンケートを見ると、感想欄や自由意見の欄にいろいろな意見があり、参加者それぞれ学ぶことがあったのだなと思った。体験学習終了後にまとめて、次回の11月の会議で報告したい。昨年の参加者は上郡高校が多かったが、今回は偏りのないよう市外も含めて大学などにも事前に訪問し案内した。結果、いろんな学校から参加いただけた。大原専門学校も、昨年、資料を持参して今年結果につながったので、こういう地道な活動を来年以降も続けていきたい。

委員： 去年のひめじおんまつりも同じだが、中学高校の学校関係の反応が大変良い。来られた学生の満足度も高いし、受け入れた側の満足度も高い。

委員： 今回、昨年と比べて手応えはあったということか？

事務局： 手応えはあったと感じている。参加人数は昨年より若干減ったが、専門学校の方はそれなりの意見を書かれており、内容的には非常に良くなったと感じている。去年も、記入欄は設けていたが、参加者は高校生が多かったこともあり「姫路はゴミが少ない街だと思った」というような内容が多かったが、今回は色んな意見がある。分析して今後の事業に活かしていきたい。

委員： 実際に聞きに行くと良い。高校生は、自由意見と言われても、何を書いて良いのかわからずにあきついたりなことを書く。実際に取材に行くと、聞いてみると良い感想を言ってくれるのでは。

事務局： 一通りまとまったら、団体にも聞きに行きたい。事業をより良くするために特に参加者の多かった大原専門学校の先生とは、今後のことも含めて話したい。